

日本英文学会東北支部ニュースレター

Newsletter

The Tohoku Branch of the English Literary Society of Japan

2020年6月号 (June 2020)

発行 日本英文学会東北支部 〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149 宮城教育大学 英語教育講座 竹森徹士研究室内
TEL: 022-214-3496 E-mail: tohoku@elsj.org URL: <http://www.elsj.org/tohoku/>

支部長挨拶

日本英文学会東北支部長 大河内 昌

日本英文学会東北支部が正式に発足してから今年度がちょうど10年目になります。この記念すべき10周年を新型コロナウイルスの蔓延のただ中で迎えなければならないことは、たいへん残念です。東北支部はこの間、日本英文学会本部と連携しながら『英文学研究(支部統合号)』や『支部大会資料』の発行へ協力し、あるいは支部独自の研究奨励事業などを行ってきました。そうした実績を思えば、日本英文学会の公益財団法人化に伴う東北支部の設立にはそれなりの意義があったと言えます。それはひとえに支部の理事や事務局の先生方の献身的な努力のおかげです。しかし、人文学への逆風や会員の減少といった東北支部が直面している現下の問題を考えると、これからの10年間を楽観視することはできません。顧みると東北支部は理事会のメンバーが比較的固定していました。それは、経験豊富なベテラン理事による安定した支部運営という意味では大きな利点となっていました。今後起こるであろう新しい問題への対応という点では必ずしも望ましいことではありません。東北支部の未来を切り拓くためには、もっと若くて柔軟な思考力をもった世代の会員の積極的なご協力が不可欠です。今回、東北支部理事会では、理事会に新陳代謝をもたらすべく「理事の連続選出の制限に関する申し合わせ」決定しました。詳細は下の「理事会報告」をご覧ください。上で述べたように、現在、世界中が新型コロナウイルスによって大きな被害を受けています。東北支部においても、4月の理事会・大会準備委員会はメール会議とせざるをえませんでした。さらに、11月に福島市で開催が予定されている支部大会も通常のかたちで開催できるか危うい状況です。他の学会や研究会も軒並み開催が中止や延期になっています。支部大会の開催については大会準備委員会で慎重に検討する予定です。このコロナウィルスの蔓延は未来に語り伝えられる世界史的事件になると思われます。政治や経済だけでなく、これまで積み重ねられてきた戦後的な価値観の根幹を変える可能性すらあります。ポスト・コロナの時代における人文学に対しては、さまざまな課題が与えられると思います。われわれは現在オンライン授業で忙殺されていますが、その中でも思考を積み重ねてゆかなければなりません。東北支部がポスト・コロナの時代においても、会員諸氏の交流と意見交換の場として意味あるものとなるよう、私も理事や事務局員の先生方と協力しながら力を尽くしたいと考えています。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

入退会手続きおよび会費納入について

全ての東北支部会員の入退会手続きおよび会費納入は、支部事務局ではなく本部事務局を通じて行われることとなります。日本英文学会 HP (<http://www.elsj.org/>) に入退会に関する情報がございますのでご覧下さい。詳しくは本部事務局 (ejimu@elsj.org) へお尋ねください。年会費は、本部会費(7000円) + 支部会費(1000円) です。

第 75 回支部大会の開催について

2020 年 4 月 17 日（木）～23 日（木）に第 1 回理事会および大会準備委員会が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のためメール会議による開催となりました。大会の準備にあたっては感染症への対応を十分検討することが確認され、審議の結果、第 75 回大会は以下の日程で行われることになりました。みなさまお誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

日時：2020 年 11 月 21 日（土）

場所：コラッセふくしま

※新型コロナウイルス感染症の拡大の状況等により開催に変更が生じた場合には、支部ホームページにて、すみやかにお知らせいたします。

研究発表応募要項

第 75 回大会で研究発表をご希望の方は、(1) 研究発表概要（2000 字・審査用）、(2) 概要の要旨（400 字・採用された場合に大会プログラムに掲載）、(3) カヴァーレターの 3 点を 6 月 19 日（金）までに MS Word 形式の添付ファイルにして、東北支部事務局（tohoku@elsj.org）までお送りください。

また、(3) のカヴァーレターは、東北支部 HP（<http://www.elsj.org/tohoku/>）よりダウンロードしたものをお使い下さいますようお願い申し上げます。

シンポジウムについて

第 75 回大会で行われる予定のシンポジウムでは、次のような企画が進行中です。どうぞご期待ください。

◆英米文学部門：テーマ：「英米文学における記憶と想像力」

司会・講師：小林亜希（山形県立米沢女子短期大学准教授）

講師：福士航（東北学院大学教授） 宮澤文雄（島根大学講師） 三村尚央（千葉工業大学教授）

◆英語学部門：テーマ：「形態論と談話の接点：形態論から見た談話、談話から見た形態論」

司会・講師：西牧和也（新潟食料農業大学講師）

講師：五十嵐啓太（岩手県立大学短期大学部講師） 納谷亮平（筑波大学助教）・石田崇（筑波大学大学院）

大会準備委員について

今年度の大会準備委員は以下の会員が務めます。

英文学部門：小林亜希（山形県立米沢女子短期大学） 三枝和彦（山形大学）

米文学部門：村上東（秋田大学（非））

英語学英語教育部門：近藤亮一（弘前大学） 西牧和也（新潟食料農業大学）

開催校委員：川田潤（福島大学）

編集委員について

今年度の編集委員は以下の会員が務めます。

英文学部門：鈴木淳（東北工業大学） 福士航（東北学院大学） 佐藤恵（東北生活文化大学短

期大学部)

米文学部門：村上東（秋田大学（非））

英語学英語教育部門：三村敬之（岩手県立大学） 中島崇法（東北大学） 三上傑（東北大学）

なお、米文学の投稿論文については、村上委員および村上委員の依頼による2名の外部査読委員（もしくは1名の外部査読委員と英文学担当の編集委員1名）の3名の審査委員により審査が行われます。

事務局の体制について

宮城教育大学教授・竹森徹士が事務局長を、東北大学教授・島越郎が事務局長補佐を、宮城学院女子大学助教・酒井祐輔が事務局員を務めております。支部大会開催関係事務と会計を竹森が、出版関係事務を島が、HP管理を酒井が担当しております。事務局へのご連絡はeメール（tohoku@elsj.org）をお使いください。

東北支部役員選挙について

今年度は理事改選選挙の年です。2年以上会費が未納になりますと、会員資格を失い会員名簿から削除されてしまい、結果として支部理事選挙に参加できなくなってしまうので、ご注意下さい。会費未納の会員は、どうぞお早めに納入をお願い致します。支部理事選挙の投票に関する詳細は、9月後半から10月初旬の間に送付される通知をご覧ください。

なお、今年度の選挙では従来の要領に加えて、2019年度の第2回理事会で承認された「理事の連続選出の制限に関する申し合わせ」が実施されます。同申し合わせの趣旨および実施にあたっての詳細は下記の2020年度第1回理事会の議事録をご覧ください。

各支部から選出された理事のなかから、日本英文学会会長が選出されることになります。日本英文学会本体の会長選出に関わる大変重要な選挙ですので、忘れずにご投票をお願いいたします。

理事会報告

2020年4月17日（木）～23日（木）に開催された第1回理事会の議事録を掲載します。

日本英文学会東北支部 2020年度第1回理事会

議 事 録

日 時：2020年4月17日（木）～23日（木） 場 所：メール審議のため場所の設定はなし

出席者（順不同・敬称略）

支 部 長 大河内昌（東北大学）

副 支部長 川田潤（福島大学）

理 事 大西洋一（秋田大学）奥野浩子（弘前大学）金子淳（山形大学）金子義明（東北大学）境野直樹（岩手大学）

佐々木和貴（秋田大学）鈴木亨（山形大学）鈴木雅之（宮城学院女子大学）村上東（秋田大学）

事 務 局 竹森徹士（事務局長） 島越郎（事務局長補佐） 酒井祐輔（事務局員）

議 題

報告事項

(1) 本部理事会報告

3月16日～19日に本部役員会議がメール会議で開催され、2020年度の予算、事業計画等が承認された。また、4月3日

に原田範行会長より、コロナウィールス蔓延により琉球大学での全国大会を中止しウェブカンファレンスに変更する旨の提案があり、役員会として承認した。

議事

(1) 2019年度事業報告（資料1）

事務局が提示した事業報告が承認された。

(2) 2019年度決算報告（資料2）

事務局が提示した決算報告が承認された。

(3) 2018年度監査報告（資料2）

事務局より監査報告について説明があり、承認された。

(4) 2020年度事業計画について（資料3）

事務局より資料に基づいて事業計画が提示された。今年度は支部役員選挙の年にあたるため、一昨年の実施状況に倣って、9月から11月にかけて選挙が計画されている。感染症対策の観点から、以降の大会準備委員会、編集委員会、理事会、支部大会の開催形態については今後検討の必要があることが確認された。

(5) 2020年度予算について（資料4）

事務局より2月に本部に提出された予算案が提示され、予算額の概要と増減に関する説明があり、承認された。

(6) 2020年支部役員選挙について（資料5）

今年度は理事改選選挙の年であることから、事務局より従来の要領に則って選挙を実施することが提案され、承認された。10番目の得票者が同点で複数いた場合、地域および専攻分野のバランスを勘案して候補者を決定し、さらに地域および専攻分野を勘案しながら5名以内の理事を追加で選出することが可能であること（支部規約第九条）が確認された。

さらに、2019年度の第2回理事会で定められた「理事の連続選出の制限に関する申し合わせ」を実施することが承認された。同申し合わせは、本支部理事構成員の固定化と高齢化への対策として支部長より提案され、同理事会で承認されたものである。以下にその申し合わせを再録する。

理事の連続選出の制限に関する申し合わせ

1. 日本英文学会東北支部の理事を4期8年連続して務めた者は、次期の理事選挙において被選挙権を失う。さらに次の理事選挙においては被選挙権を回復する。
2. ただし、日本英文学会東北支部の理事を4期8年連続して務めた場合でも、理事会の承認と本人の同意がある場合は、第1条の適用を受けないことがある。

令和元年11月23日制定

理事会では、大幅な理事の入れ替えを緩和する措置を選挙において併せて講じることも了承されており、今回の選挙では申し合わせ1に該当する8名の理事（大河内昌、奥野浩子、金子義明、川田潤、佐々木和貴、鈴木亨、鈴木雅之、村上東（敬称略））の半数に申し合わせ2を適用して、激変緩和措置とすることとした。

申し合わせ2の該当者は次の各理事（敬称略）とし、その理由はそれぞれの理事の氏名のあとにかっこで記されているとおりである。これらの理事は本年度の選挙で被選挙権を有することとする。

川田潤（支部運営の継続性に考慮）、佐々木和貴（本部との連携を考慮）、鈴木亨（英語学との連携に考慮）、村上東（アメリカ文学との連携に考慮）

(7) その他

議事の項目（4）でも確認したように、感染症対策の状況をふまえ、以降の大会準備委員会、編集委員会、理事会、支部大会の開催形態については、今後検討の必要があることが確認された。

以上